

和地ひとみレポート No.91

『ちょこバス』のあり方について意見を聞く懇談会開催で 問題解決への具体的な動きに入るのか・・・



■ちょこバスの現状

…東大和市コミュニティバス「ちょこバス」は平成 15 年 2 月 1 日に運行を開始し、平成 21 年 9 月 1 日のダイヤ変更で、経路が時間帯別に朝晩ルート、昼間ルートの 2 経路となっています。旧ルートでは上北台駅・奈良橋市民センター間は芝中団地を經由していましたが、新ルートは両ルートとも芋窪経由となり、朝晩ルートは 60 分間隔、昼間ルートは 90 分間隔の運行という状況で『もっと利便性を高めて欲しい⇨ダイヤを増やしてほしい』『朝晩と昼間のルートが違い、使いづらい』『以前のルートに変更して欲しい』など、不便だという声が多く聞かれている状況です。

…東大和市では「東大和市地域公共交通会議」を設置し、コミュニティバスに関することを様々検討してきています。また、市議会においても多くの議員がその問題点や市民の声への対応に対して追求、新たなアイデアなどを提案していますが、根本的な問題解決にむけての取り組みは行われていない状況です。ちょこバス運行に関しては、今年度の予算でも約 4 0 0 0 万円の赤字補填を市の一般財源から行わなければ運行できない状況で、今後数年の間に、バスの車両の買い替えも行わなければならず、更にお金をかけなければ運行が困難な状況です。

■市民の声を聞く

…市で実施した事業を毎年評価する『行政評価』。平成 24 年度の事業については役所内だけでの評価ではなく、外部評価を東大和市では実施しておりますが、そこでもこのコミュニティバス事業については評価の対象となっています。一部の事業で「縮小・廃止」という評価が出されている外部評価において、問題の多いコミュニティバス事業については「現状を分析した上で、成果向上の余地あり」という評価。高齢化が進んでいる状況の中で、市民の手軽な足となるコミュニティバスの必要性は認識されている状況ですが「市民の手軽な足」という根本的な目的を果たしていない、また、それを維持するためにはどのような方法が良いのかということに大胆に切り込んで検討する必要があることが出てきたことは否めません。

…サービス事業はその利用者の声を一つでも多く実現することが成功の基本です。今回、下記のとおり『ちょこバスのあり方について（市民の）意見を聞く懇談会』を開催することは、方向性としては正しいと思いますが、一方で、懇談会を開催しただけで市民のニーズを全て捉えたと言えるのか。また、市民の声を聞いたあとに、それをどのように活用するのかということが明確でなければ「市民の声を聞いた」という事実を担保したに過

ぎないと言われてしまう恐れがあります。

■会の進め方についても工夫が必要

…尾崎市長就任以後、市長と語ろう会”タウンミーティング”をはじめ、当市では様々な市民の声を聞くことを目的とした会が開催されています。そのような会では必ず質疑応答の時間が設けられて多くの市民の方が質問だけではなく、意見を述べられています。それらの意見を活用した場合には、どこかで市民の意見が反映されたことが市民に伝わらなければ、参加者も参加の意義が見いだせず、徐々に減少してしまうのではないのでしょうか。

また、いずれの会についても、もっと多くの市民の方に参加してもらえるよう、開催時間や場所の設定、広報の仕方などを工夫をしなければ、市民の本当の声の実態が把握できず、偏りが出てしまう可能性もあります。

…さらに、質疑応答の時間についても「質問、ご意見はありませんか」と手放しで問いかけるのではなく、今回のように問題が明確なことについては、「叩き台」も何もない状況ではなく、市が想定している案をいくつか例示し、それを元に議論を進めていくような形も必要と考えます。

…いずれにせよ、ちょこバスについては、バスの買い替え時期を考えると、解決までの時間的猶予はありません。今回の懇談会を機に早期に根本的な解決についての結論を出し、実際の対策を実行する時期に来ていると言えます。

.....

【ちょこバスのあり方に関する懇談会】

■8月6日（火）午前 10：00～11：30
市役所会議棟 第6会議室

■8月7日（水）午前 10：00～11：30
桜が丘市民センター 集会室

■8月9日（金）午前 10：00～11：30
蔵敷公民館 101 室

■8月11日（日）午前 10：00～11：30
湖畔集会所 集会室

■8月16日（金）午前 10：00～11：30
清原市民センター 第1・2集会室